

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「生きる力」を育む教育活動の充実を図るとともに、生徒の個性を伸長させ、社会をリードする人材を育成する学校。

- 1 学習において、主体的に知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する「確かな学力」を育成する。
- 2 生命や人権を尊重し、自然や美しいものに感動する「豊かな心」を育むとともに、たくましく生きるための「健康・体力」を保持増進する。

2 中期的目標

- 1 新しい時代を生き抜くための「確かな学力」の育成
 - (1) 生徒一人ひとりの状況に応じた学習指導の推進
 - ア すべての教科において、主体的・対話的で深い学びの実現をめざし、一人ひとりの生徒が能動的に参加できるように授業の工夫を行い、今後必要とされる学力の向上をめざした授業研究・実践に取り組む。
 - イ 定期的に会議を実施し、個々の生徒の状況を共有し、課題のある生徒に対して組織的に対応する。
 - (2) 自学自習習慣の確立
 - ア 自学自習習慣の確立のため、自習環境の整備や大学生の学習ボランティアの活用など学習環境の整備に努め、生徒の自ら学ぶ力を育成する。
※授業アンケート調査における「授業内容に、興味・関心をもつことができた」の肯定率を令和8年度には85%以上とする。(R3 87.8% R4 82.5% R5 84.3%)
 - イ 授業アンケート調査における「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」の肯定率を令和8年度には85%以上にする。(R3 88.0% R4 83.9% R5 84.3%)
- 2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ
 - (1) 基本的生活習慣の確立
 - ア 遅刻指導やマナー指導を通じ、基本的生活習慣の向上や学校生活における規範意識の醸成を図る。
 - (2) 学校行事の活性化
 - ア 生徒会や部活動・団活動のリーダーを中心に、生徒一人ひとりが協力し合い、本校の特色を生かした取組みについて、生徒の自主的な活動を促進する。
 - イ 学校行事や生徒会活動の特別活動を通して、他者を理解し、望ましい集団活動ができる態度を育成する。
 - ウ 姉妹校の訪問と受け入れや訪日団体の受け入れ等、国際理解教育を積極的に推進し、グローバル社会に対応できる力を育成する。
 - (3) 体力・運動能力向上のための取組みの充実
 - ア 生徒が安心・安全かつ積極的に体育・スポーツ活動に取り組むことができるよう事故防止や熱中症予防についてのセミナーを開催し、健康管理や救急救命処置についての生徒の意識を高める。
※学校教育自己診断における「本校は生徒心得を守るよう適切に指導している」の肯定率を令和8年度には85%以上とする。(R3 76.3% R4 81.4% R5 83.4%)
 - イ 学校教育自己診断における「私は服装や髪型等、生徒心得を守っている」の肯定率を令和8年度には97%以上にする。(R3 92.0% R4 95.4% R5 95.7%)
- 3 進路保障
 - (1) キャリア教育の推進
 - ア 全ての教育活動をキャリア教育と位置づけ、基礎的・汎用的能力を育成する。効果的な指導を行うためのガイダンスなどを系統的・継続的に行う。また、教科でのキャリア教育を推進し、思考力・判断力・表現力をより重視した教育活動を進める。
 - (2) 進学対策の充実
 - ア 放課後セミナー、土曜セミナー等を実施し、進路や習熟度に応じた対策を講じる。
 - イ 学年・学科・系列と協力し、進路意欲向上のためのガイダンスの実施や情報発信をおこなう。
 - ウ 1人1台端末を使用して、学力生活実態調査や学習支援クラウドサービスを効果的に活用した一人ひとりのニーズに応じた進路指導を推進する。
※2年生の学校教育自己診断で、「私は具体的な進路目標を持っている」の割合を令和8年度には80%以上にする。(R3 72.3% R4 78.3% R5 69.2%)
 - イ 学校教育自己診断で、「本校では進路に関する情報提供が十分に提供され、きめ細かい指導が行われている」の肯定率を令和8年度には全学年で85%以上にする。(R3 76.8% R4 85.4% R5 84.5%)
 - イ 第3学年当初の希望進路実現率を令和8年度には90%以上にする。(R3 94.3% R4 87% R5 90%)
- 4 学校の組織力向上と魅力のある開かれた学校づくり
 - (1) 学校運営体制の整備
 - ア 各分掌や学科・系列・教科の業務や指導内容を点検・評価を行い、校内の「見える化」をさらに進める。
 - イ 本校の将来を見据えた課題解決の方向性を示し、改善策を立案する。
 - (2) 授業研究を伴う校内研修の充実
 - ア 授業力・教科指導力の向上を目的として、公開授業週間および保護者対象の授業参観を実施する。
 - (3) 働き方改革
 - ア 校務におけるICT活用の推進および部活動適正化の徹底を図る。
 - (4) 家庭・地域との連携の推進
 - ア 「学年だより」「進路だより」「保健だより」等のデータ配信、授業参観、PTA研修会等の実施、地域イベントへの参加などにより家庭・地域と連携した教育活動を行う。
 - (5) 広報活動の充実
 - ア 生徒の学校生活や校内行事、校外活動などについて、ホームページを通じて外部に積極的に情報を発信する。
※時間外在校等時間月80時間以上の教職員を令和8年度には5%以下とする。(R3 18% R4 11% R5 8.6%)
 - イ 学校教育自己診断で、「本校に入学してよかったと思っている」の肯定率を全学年で令和8年度には90%以上にする。(R3 83.0% R4 85.0% R5 85.5%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 新しい時代を生き抜くための「確かな学力」の育成	<p>(1) 生徒一人ひとりの状況に応じた学習指導の推進</p> <p>ア 主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>イ 授業への ICT 機器の効果的な活用</p> <p>(2) 自学自習習慣の確立</p>	<p>ア・一人ひとりの生徒が能動的に参加できるようにアクティブラーニング型手法を取り入れた授業を行い、専門人材を積極的に活用し、確かな学力の育成と授業改善に取り組む。</p> <p>大学と連携し高大接続の強化 DX ハイスクール事業等による文理横断的な学びの推進</p> <p>イ・1人1台端末を効果的に活用した教育実践に取り組む。</p> <p>・学力生活実態調査や学習支援クラウドサービスを活用し、自身の課題把握や教材配信など学習支援を図る。また、大阪公立大学・大阪大学・大阪教育大学等の大学と連携し、大学生の学習ボランティアによる自習環境を整える。</p>	<p>ア・教職員用学校教育自己診断で、「主体的・対話的で深い学びとなるよう、一方的な講義形式ではない授業形式など授業を工夫している」教員の割合 90%以上を維持 [92.1%]</p> <p>・授業アンケート結果で、「授業内容に、興味・関心をもつことができた。」の肯定率 85%以上 [84.3%]</p> <p>・授業アンケート結果で「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。」の肯定率 85%以上 [84.3%]</p> <p>イ・生徒用学校教育自己診断で、「学校は1人1台端末を効果的に活用している」肯定率 90%以上 [86.6%]</p> <p>・教職員用学校教育自己診断で、「授業において積極的に ICT 機器の活用を行っている」教員の割合 90%以上を維持 [94.7%]</p> <p>・大学と連携し、学習ボランティアを活用した土曜セミナー(自習スペース開放)を年間5回実施 [5回]</p>	
2 豊かであぐましい人間性のはぐみ	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立</p> <p>(2) 学校行事の活性化</p>	<p>・正門での登校指導や遅刻指導等を通じて、基本的な生活習慣の確立や規範意識の醸成を図る。</p> <p>カウンセリングシートを用いた個別指導 遅刻防止週間の設定 早朝登校の実施</p> <p>・生徒会役員がリーダーとなり、生徒が自主的に学校行事を運営することにより、他者を理解し、望ましい集団活動ができる態度を育成する。また、姉妹校の訪問や受け入れ等、国際理解教育を積極的に推進し、グローバル社会に対応できる力を育成する。</p>	<p>・年間の遅刻数を1人あたり3回以下 [3.49回]</p> <p>・体育祭・文化祭後の生徒アンケートで肯定的回答 90%以上を維持 [93.4%]</p> <p>・姉妹校の訪問に参加した生徒の満足度 80%以上 [新規項目]</p>	

	(3) 体力・運動能力向上のための取り組みの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・事故を防止し、生徒が安心・安全かつ積極的に体育・スポーツ活動に取り組むことができるように運動部の部員を中心についてのセミナーを開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動部員に対して年1回以上救急救命処置等のセミナーを開催 ・セミナー参加生徒の満足度 90%以上を維持 [92.9%] 	
3 進路保障	<p>(1) キャリア教育の推進</p> <p>(2) 進学対策の充実</p> <p>ア 進路や習熟度に応じた進路指導の推進</p> <p>イ 多様な進路希望に対応した情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教育活動をキャリア教育と位置づけ、基礎的・汎用的能力を育成するとともに、主体的・対話的で深い学びを実践する力の育成をめざして系統的・継続的なガイダンスを行う。 <p>ア・学習支援クラウドサービスを効果的に活用し、従来中心であった放課後のセミナーを長期休業中に集中的に実施する。</p> <p>イ・進路意欲向上のため学年・学科・系列と連携のもと、生徒の進路実現に向けた情報発信を継続的にこなす。 大学教員による進路ガイダンス 大学教員による出前講義や実技講習 学科、系列ごとの大学訪問</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況や実態に応じたガイダンスや講話を各学年とも学期に1回以上実施 [1年6回、2年15回、3年20回] <p>ア・セミナーの講座数 25 講座程度 [26 講座]</p> <p>イ・学習支援クラウドサービスを活用した生徒、保護者向けの進路情報の発信を月1回以上実施 [12回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生の学校教育自己診断「私は具体的な進路目標を持っている」の割合 70%以上 [69.2%] ・3学期の生徒・保護者アンケート調査「本校では進路に関する情報提供が十分に提供され、きめ細かい指導が行われている」の肯定率 85% [84.5%] ・第3学年当初の希望進路実現率 85%以上 [90%] 	
4 学校の組織力向上と魅力のある開かれた学校づくり	<p>(1) 学校運営体制の整備</p> <p>(2) 授業研究を伴う校内研修の充実</p> <p>(3) 働き方改革</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある教育の一層の充実を図るため、各分掌や学科・系列・教科の業務や指導内容について点検・評価を行い、校務運営の「見える化」の推進を図り、連携を強化する。 ・本校を取り巻く課題を検討し、教育活動を体系化・継続化するため、将来構想検討委員会を定期的に開催し、魅力ある教育活動の実施をめざす。 ・教職員間での公開授業週間および保護者対象の授業参観を実施することを通じて授業力・教科指導力の向上をめざす。 ・校務運営における ICT 活用を推進し、校務の効率化を図り、教職員の時間外勤務の縮減を推進する。 全校一斉定時退勤日の徹底 「部活動方針」を遵守するとともにノーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務運営の在り方も検討する将来構想検討委員会を年間5回以上開催 [5回] ・公開授業週間、保護者対象授業参観をそれぞれ年2回以上実施 [公開授業週間2回、保護者対象授業参観2回] ・公開授業週間で教員向けアンケートを実施し、アンケート結果を自らの授業改善に生かすことが出来た教員の数 70%以上を維持 [71.4%] ・時間外在校等時間月 80 時間以上の教職員数 7% 以下 [8.6%] ・職員会議の 70%以上を開催時間 50 分以内 	

	<p>(4) 家庭・地域との連携の推進</p>	<p>ラブデーの徹底 保護者配付資料や会議資料のペーパーレス化推進</p> <p>・開かれた学校づくりのため、「学年だより」「進路だより」「保健だより」等の発行や教職員・PTA 合同の研修会等の実施、生徒の地域イベントへの参加などに取組み、家庭・地域と連携した教育活動を充実させる。 区主催のイベントへの参加 地域企業等との連携事業の推進</p>	<p>[73.7%]</p> <p>・保護者用学校教育自己診断「本校は保護者に対して、教育活動を理解するための情報提供が適切に行われている」の肯定率 85%以上[84.8%] ・教職員・PTA の合同研修会を 1 回以上実施[1 回] ・地域で開催される地域イベント等に生徒が参加することができたか。[3 回]</p>	
	<p>(5) 広報活動の充実</p>	<p>・ホームページの更新を通じて積極的に学校に関する情報を発信し、学校の魅力を外部に伝える。 ホームページの全面リニューアル 生徒主体の学校説明会や体験入学の運営 中学校 P T A 対象学校見学会の実施</p>	<p>・ホームページの更新 180 回以上[178 回]</p> <p>・生徒用学校教育自己診断「本校に入学してよかったと思っている」の肯定率 85%以上を維持[85.5%]</p>	